

はあとふる ふくしま

2018
2
February

発行・企画編集
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
TEL (024) 523-1251(代) FAX (024) 523-4477
URL <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>
メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp



地域の困りごと解決と
障がい者の雇用をマッチングして
イキイキと働ける環境づくりを



特集

高校生 × 福祉

～教育、福祉の現場から福祉の人材育成を考える～

今
月
の
表
紙

就労継続支援B型事業所「ステップボード」では、廃電線やパソコンの処分など地域の困りごとを見つけ出し、分業化することで雇用創出に取り組んでいます。(詳しくは6ページで紹介)



未来へつなごう “ふくしま”から

取材協力

NPO法人くるりんこ
ステップボード (喜多方市)
TEL0241-23-7400

荒川産業株式会社 (喜多方市)
TEL0241-21-1511



地域みんなが輝ける場づくりを目指して

【就労継続支援B型事業所 ステップボード】

長年地域に根付いた活動を行い、昨年創業125年を迎えた荒川産業(株)。「人は大切な資源」ととらえ、高齢者雇用や障がい者の就労継続支援B型事業所の立ち上げなど、さまざまな人がイキイキと働ける環境づくりに取り組んでいるほか、リサイクル業務の一環として地域団体の活動を応援する基金を設立するなど、地域活性化にも力を入れています。



1 廃電線を機械に入ると、銅線とビニールに分かれて出てきます。他にはパソコンを分解して金属を取り出したり、エコキャップの選別をしたりする作業なども行っています 2 社員が中心となってボランティア活動に参加。地域の清掃や猪苗代湖のクリーン活動も行っています 3 24時間受付しているリサイクルボックス



地域で活用されていない資源を見つけ、障がい者の雇用を創出

喜多方市に本社を持つ荒川産業(株)は、「地域資源発掘業」×「地域課題解決業」をテーマに、リサイクル・エンジニア・エコロジィ・ヘルスケア・ライフの5つの分野でサービスを展開しています。その取り組みの一つとして、NPO法人くるりんこ「就労継続支援B型事業所ステップボード」を平成26年9月に開設しました。

「10年ほど前に新規事業を任せられた際、地域やリサイクル業界の抱えている課題を洗い出す中で、営利だけでは解決できないこともあると感じました」と話す、代表取締役社長でNPO法人くるりんこ理事長も務める荒川健吉あらかわけんきちさん。そんな折に東日本大震災が発生。その影響で障がい者施設での仕事が減っているという話を聞き、以前から行っていた廃電線のリサイクル業務を施設に委託することで仕事が創出できるのではと、新たな取り組みを始めました。

廃電線をリサイクルする際に、外側のビニールを燃やすことは公害の一因となることやコスト面の問題から、多くは海外に輸出して処分され

「きずなループ事業」のしくみ



ていました。荒川さんが中国を視察した際に見たのは、山積みになった廃電線が環境負荷を気にすることなく処分されていた風景。「これでは公害を輸出しているのと同じ」と感じ、障がいを持つ人たちにこのリサイクル作業を安全に行ってもらい、その資源を国内で使うべきではと考へ「きずなループ事業」を始めました。



「障がいがあっても活躍できる場があるべき」と荒川さん

現在行っている廃電線のリサイクルは、専用の機材を使ってビニールをはがして銅を取り出すものです。「産業の地産地消」として電線を提供してくれる企業が40社ほどあり、県内10力所の障がい者施設が参加しています。ステップボードでも、喜多方市から設備導入に対する支援を受けて参加が実現。開設して3年余りですが、すでに2人が就労につながっています。「事業所の名称であるステップボードとは踏み板・足がかりのこと。ここでの仕事をきっかけに利用者の就労につながり、さらにステップアップできれば」と荒川さん。「当社にはグループ全体で約200人の社員がいますが、年齢もキャリアも様々。これまで1人で担っていた仕事を分業化することで、障がい者も高齢者も自分の強みを生かした仕事ができるようになります。高齢化が進み、今後ますます人手不足になるといわれていますが、その解消のためには他業種とも連携して地域で支えることが重要と力を込めます。

社員の主体的な活動が 地域団体の活動をサポート

同社は地域貢献活動の一環としてボランティア活動にも取り組んでお



「喜多方市以外のリサイクルボックスの認知度も高めていきたい」と鱒淵さん

り、月1回地域清掃を行っているほか、平成6年にオープンしたリサイクルミュージアム「くるりんこ」では、見学に訪れる地域の小学生にリサイクルの仕組みを分かりやすく説明しています。

平成16年には「故紙コンテナパーク基金」を設立。リサイクルボックスに寄せられた故紙などの売却益を基金として、喜多方市近郊で活動している団体に対して助成金を交付し、地域活性化に役立ててもらっています。公平性を保つために、助成金交付先の選考は地元にお住いの方に外部審査員をお願いしており、年2回募集し、1団体5万円を上限に助成しています。「募集については喜多方市内限定のフリーペーパーでのみ告知していますが、毎年たくさんのお応募をいただきます。助成先は市民劇団や子ども食堂、読み聞かせ、学習支援、花いっぱい運動など多岐にわたります」と、荒川産業グループのリサイクル部門「アマルク喜多方

主任の鱒淵^{ますずぶね}優子^{ゆうこ}さん。助成後に、実際に活動場所へ社員が足を運ぶこともあるといいます。

リサイクルボックスは喜多方市内3力所のほか、会津若松市、会津坂下町、郡山市にもあり、地域ニーズにあったやり方を考えながら、もっと広げていきたいと話す鱒淵さん。こうした社員の意欲的な活動を支える荒川さんも、「地域の資源は地域に還元」とみんなが輝ける未来を見つめています。



様々なリサイクル方法が紹介されている「くるりんこ」